

背面開放座位の持続可能性に関する調査

【スタッフのみなさま用】

はじめにお読みください

- ・背面開放座位を実践している・過去に実践した経験のある、看護師経験 1 年以上の方が対象です
- ・質問紙は無記名で、全部で 6 ページ、回答時間はおよそ 15～20 分程度です
- ・このアンケートでは、背面開放座位の実践について、病棟・病院についての質問を行います
あなたの背面開放座位の実践や考え、組織の状況を知るためのもので、あなた自身の看護実践を評価するものではありません。日頃の実践や考えについて、ありのままお答えください。

ご記入済みの質問紙は、同封の返信用封筒に入れて封をし、**2 週間を目途**にご投函ください
回答のお礼として、**500 円のアマゾンギフトカード**をお送りいたします

本研究へご協力いただける方は、下記の□へチェック（✓）を入れてください

☐ 説明を読み、研究協力に同意します

○「背面開放座位」

できるだけ背面を支持しない空間をつくり、背筋を伸ばし脊柱の自然な S 字カーブを損なわない姿勢で、足底をきちんと設置した姿勢を指します。

背面開放座位保持具の使用は問いません。



背面開放座位保持具は病棟で活用できるものがありますか？

有 ・ 無

この質問紙の一部（背面開放座位の継続に影響する具体的要因）は、Clinical Sustainability Assessment Tool, copyright 2019, Washington University, St Louis, MO.から引用しています。

オリジナルを知りたい方は、<https://www.sustaintool.org/>を参照ください

I. 現在の背面開放座位の実施状況について

以下の設問が、 <u>現在のあなたの実践</u> にどの程度当てはまるか、最も当てはまる番号ひとつに○をしてください		あてはまらない	全くあてはまらない	どちらでもない	あてはまる	非常にあてはまる
1	私は、背面開放座位を看護の一部として日常的に行う	1	2	3	4	5
2	私は、必要時にできるだけ背面開放座位を行う	1	2	3	4	5
3	私は、これからも背面開放座位を行い続ける	1	2	3	4	5
4	背面開放座位に関連した患者効果は、導入時・あるいは実施し始めてから、変わらず維持されている	1	2	3	4	5
5	背面開放座位の患者効果以外の利益（家族や看護師の満足度向上・業務改善など）を感じる	1	2	3	4	5

6 現在、背面開放座位を実践されている方にお伺いします
→**現在、実践されていない方はⅡへお進みください**

-1 あなたが今の病棟で背面開放座位を実践し始めたのは何年前ですか

おおよそで結構ですので、枠内に数字をお書きください

年

-2 病棟の背面開放座位の適応患者のうち、背面開放座位が提供されている割合はどの程度ですか

*適応患者：意識レベル低、自力でベッド上端座位が保持できない患者

1. 全て 2. 3/4程度 3. 半分程度

4. 1/4程度 5. 1/4以下

-3 背面開放座位を、何を目的として実践していますか？（複数回答可）

1. 意識障害の改善 2. 筋力の維持 3. 呼吸状態の改善
4. 他の看護技術（手浴・マッサージ、背部温電法等）を行うため
5. その他（ ）

-4 背面開放座位を、1回何分程度実施していますか？

1. 30分以上 2. 20～30分 3. 10～20分 4. 5分～10分 5. 決めていない

Ⅱ. 背面開放座位に対するあなたのお考え・状況について

以下の設問が、 現在のあなたの考え にどの程度当てはまるか、 最もあてはまる番号ひとつに○をしてください	はま くあ てい ない	あ て は ま ら ない	あ ま り あ て は ま ら ない	い ど ち ら も ない	あ や あ て は ま る	あ な り あ て は ま る	あ 非 常 に あ て は ま る
1 背面開放座位について、好意的に感じている	1	2	3	4	5	6	7
2 背面開放座位は、有益な結果をもたらすという証拠（エビデンス）がある	1	2	3	4	5	6	7
3 背面開放座位には、他の方法と比べて明らかな利点がある	1	2	3	4	5	6	7
4 背面開放座位は、患者の転帰改善と関連している	1	2	3	4	5	6	7
5 背面開放座位は、健康上・臨床上の好ましい結果と明確に結びついている	1	2	3	4	5	6	7
6 背面開放座位は、かけた労力や費用に対して、得られる効果（費用対効果）が大きい	1	2	3	4	5	6	7
7 背面開放座位は、時間と労力を要するケアである	1	2	3	4	5	6	7
8 私には、背面開放座位を実践するために必要な知識と技術がある	1	2	3	4	5	6	7
9 私には、背面開放座位を実践する自信がある	1	2	3	4	5	6	7
10 背面開放座位が、患者にとってよりよいケアであると信じている	1	2	3	4	5	6	7
11 背面開放座位はよりよいケアであり、行うべきであると思う	1	2	3	4	5	6	7

Ⅲ. あなたの所属病棟の文化・雰囲気について

病棟の状況に関する以下の質問について、現在のあなたの認識に 最も近いものの番号ひとつに○をしてください	そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない	い ど ち ら も ない	そ う 思 う	そ 非 常 に 思 う
1 多くのプレッシャーにさらされて効率的に仕事を行えない	1	2	3	4	5
2 スタッフはしばしばストレスを感じ、緊張している様子である	1	2	3	4	5
3 業務の負荷が高く、背面開放座位やその他の看護イノベーションの有効性を低下させている *看護イノベーション：根拠ある新しい看護技術・看護ケアプログラム	1	2	3	4	5
4 スタッフは共通して不満を抱えている	1	2	3	4	5
5 すべてのスタッフが、何がうまくいっていて、何がうまくいっていないかをオープンに話し合う	1	2	3	4	5
6 スタッフの多くが、他者からの助言をもとに、自分の対応を変えようとしている	1	2	3	4	5
7 私たちの病棟は、なかなか物事を変えようとしらない	1	2	3	4	5

	そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	い ど ち え な い と も	そ う 思 う	そ う 思 う に う
8 この病棟の他の人たちは、自分の仕事をきちんと行うので頼もしい	1	2	3	4	5
9 病棟で働く人の多くは、仕事を楽しんでいる様子である	1	2	3	4	5
10 困難な問題は、顔を合わせて話し合うことによって解決している	1	2	3	4	5
11 私たちは、定期的に自分のやり方を振り返る時間をとっている	1	2	3	4	5
12 何か新しいことに挑戦した後は、時間を取ってそれがどのように機能したか考える時間をとっている	1	2	3	4	5
13 この病棟のスタッフは、真のチームとして業務に従事している	1	2	3	4	5
14 看護師長は、ケアの改善を協議するのに、必要な時間と場所を確保してくれる	1	2	3	4	5
15 看護師長は、業務が行いやすい環境を整えている	1	2	3	4	5
16 看護師長は、働くのが楽しくなる環境整備を推進している	1	2	3	4	5
17 看護師長は、病棟を変えるための取り組みをしっかりと支援している	1	2	3	4	5

IV. 背面開放座位の継続に影響する具体的要因について

あなたの背面開放座位の実践において、 以下の項目に最もよく当てはまる番号ひとつに○をしてください	はま くら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	い え な い	ど ち ら と も	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない	あ ま ら ない
---	----------------	-------------------	-------------------	------------------	-----------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

	は ま く あ て い ない	あ て は ま ら ない	ほ と ん ど あ て い ない	あ ま り は ま ら ない	い ど ち ら も ない	あ や て は ま る	あ な り は ま る	あ た り は ま る	非 常 に ま る	回 答 で き な い
10 背面開放座位は、臨床実践とうまく統合されている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		
11 背面開放座位は、臨床システム（電子カルテなど）とうまく連携している/していた	1	2	3	4	5	6	7	0		
12 背面開放座位は、一貫して実践できるように設計されている/いた （例：手順やフローチャートの整備など）	1	2	3	4	5	6	7	0		
13 背面開放座位実践において、すべてのスタッフの役割と責任を明確に示している/していた	1	2	3	4	5	6	7	0		
14 背面開放座位実践の理由は、全スタッフに明確に伝えられ、理解されている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		
15 スタッフは背面開放座位に関して、継続的にコーチング、フィードバック、トレーニングを受けている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		
16 背面開放座位の実践内容は、関係者からのフィードバックによって導かれている/いた（例：手順や教育の改善など） *関係者＝スタッフ、指導者、外部研究者、患者・家族など	1	2	3	4	5	6	7	0		
17 背面開放座位では、職種を超えた継続的な教育が行われている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		
18 背面開放座位は、病棟・病院の継続教育に組み込まれている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		
19 背面開放座位には、測定可能なプロセスや、成果を測定するための数値・指標などがある/あった	1	2	3	4	5	6	7	0		
20 背面開放座位の評価とモニタリングは、一貫して見直されている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		
21 背面開放座位の実践内容は、プロセスおよび結果の評価のためにしっかりと記録されている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		
22 背面開放座位のモニタリング、評価、成果データは、実践するスタッフたちに定期的に報告されている/されていた	1	2	3	4	5	6	7	0		
23 背面開放座位の実践過程・成果・指標は、簡単に評価・監査できる/できた	1	2	3	4	5	6	7	0		
24 プロセス全体にわたって、背面開放座位を推進し、スタッフを巻き込むリーダーがいる/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		
25 背面開放座位において、良い実践者は誰か認知され、尊敬されている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		
26 背面開放座位には、継続的に前向きに実践するスタッフがいる/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		
27 背面開放座位には、多職種連携で構成されたリーダーシップのあるチームがある/あった	1	2	3	4	5	6	7	0		
28 背面開放座位には、チームによる協力体制と基盤が整っている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0		

V. 背面開放座位を推進するリーダーについて

IV-24で背面開放座位を推進するリーダーがいる/いたと

答えた方にお伺いします

最もあてはまる番号ひとつに○をしてください

➡ リーダーがいない場合はⅥまたはⅦへお進みください

	そ う 思 わ な い	全 く 思 わ な い	い え な い と も	そ う 思 う	そ 非 常 に 思 う
1 リーダーは、背面開放座位に関する知識が豊富である	1	2	3	4	5
2 リーダーは、背面開放座位に関する私の質問に答えることができる	1	2	3	4	5
3 リーダーは、よく理解したうえで、背面開放座位について話している	1	2	3	4	5
4 リーダーは、背面開放座位の成功に向けたスタッフの取り組みを理解し、評価している	1	2	3	4	5
5 リーダーは、背面開放座位についてより多くを学ぼうとするスタッフの取り組みを支援している	1	2	3	4	5
6 リーダーは、背面開放座位を実践するスタッフの取り組みを支援する	1	2	3	4	5
7 リーダーは、背面開放座位を行う上で、良い時も悪い時も忍耐強く乗り越えている	1	2	3	4	5
8 リーダーは、背面開放座位を継続するための挑戦を続けている	1	2	3	4	5
9 リーダーは、隠さず効果的に、背面開放座位を実践する上での重大な問題に対処する	1	2	3	4	5
10 リーダーは、忙しくても、いつでも対応してくれる	1	2	3	4	5

Ⅵ. 背面開放座位の実践を継続できない理由について

背面開放座位を**現在実践していない**と答えた方にお伺いします

継続できない理由について、あてはまる選択肢にチェックをしてください（複数回答可）

☐ スタッフの教育・啓発を行う人員がいない/いたがいなくなった

☐ チームを作らなかった/作ったが解散した

☐ 教育に必要なツール（資料など）がなかった

☐ 医師の協力が無い/あったが医師が変わった

☐ 病院幹部・看護師長の協力が得られない/あったが得られなくなった

☐ スタッフの協力が得られない その場合の理由（あてはまるものを○:複数回答可）

興味を示すスタッフがいない、スタッフのレベル的に難しい、常勤スタッフが少ない その他（ ）

☐ 業務で忙しい、時間的余裕がない

☐ 人手が足りない（欠員）

☐ 対象となる患者が少ない/いつもいるわけではない

☐ 効果を実感できない、有用性を十分に感じない

☐ その他 自由記述（ ）

VII. 最後に、あなた自身のことについてお聞かせください

1. 看護師としての臨床経験年数（枠内に数字を記入）

 年

2. 現在の部署での経験年数（枠内に数字を記入）

 年

3. 現在の職位（ひとつだけ○）

1. 役職なし 2. 副師長・主任相当 3. その他（役職： ）

4. 取得している資格（該当するものに○）

1. 専門看護師 2. 認定看護師 3. 学会認定資格

5. 最終学歴（ひとつだけ○）

1. 看護系養成所 2. 短期大学 3. 大学 4. 大学院

ご協力いただき、ありがとうございました。 月 日までにご投函ください

ご協力の御礼（500円のギフトカード）を送付しますので、下記の枠内にメールアドレスをご記入ください

ご記入いただいたメールアドレス宛に、質問紙到着後2週間を目安に「500円分ギフトカード」を送付いたします

*メールアドレスはどのようなものでも結構です（職場用などでなくて結構です）

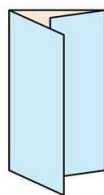
*メールアドレス管理は研究者以外の第三者が行いますので、研究者が皆様のアドレスを知ることはありません

メールアドレス

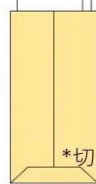


アンケートの返送方法

調査票を3つ折り
にする



返信用封筒に入れ
テープ剥がし封をする



*切手貼付は不要



お近くのポストに
投函する



背面開放座位の持続可能性に関する調査 【看護師長さま用】

はじめにお読みください

- ・背面開放座位を実践している・過去に実践した病棟の看護師長様が対象です。
- ・質問紙は無記名で、全部で5ページ、回答時間は15分程度です
- ・このアンケートでは、背面開放座位や看護イノベーションについての考え、病院・病棟の状況、教育や病棟管理について質問をします。実践や考えを知るためのもので、教育や病棟管理を評価するものではありません。日頃の考えについて、ありのままお答えください。

ご記入済みの質問紙は、同封の返信用封筒に入れて封をし、**2週間を目途**にご投函ください
回答のお礼として、500円のアマゾンギフトカードをお送りいたします

本研究へご協力いただける方は、下記の□へチェック(✓)を入れてください

☐ 説明を読み、研究協力に同意します

○「背面開放座位」

できるだけ背面を支持しない空間をつくり、背筋を伸ばし脊柱の自然なS字カーブを損なわない姿勢で、足底をきちんと設置した姿勢を指します。

背面開放座位保持具の使用は問いません



この質問紙の一部（背面開放座位の継続に影響する具体的要因）は、Clinical Sustainability Assessment Tool, copyright 2019, Washington University, St Louis, MO.から引用しています。

オリジナルを知りたい方は、<https://www.sustaintool.org/>を参照ください

I. 病院・病棟の種類や規模、特性について

1 病院が承認されている病院の分類に一つ○をつけてください

1. 特定機能病院 2. 地域医療支援病院 3. 一般病院

2 病棟の代表的な診療科をお書きください

3 病棟の病床数をお書きください（数字）

 床

4 病棟の平均病床稼働率を教えてください（数字）

 %

以下の設問は、最も当てはまる番号ひとつに ○をしてください

5 当院は、様々な経験を積ませるために、部署異動を積極的に行っている

1 ほとんどない 2 たまにある 3 ときどきある
4 しばしばある 5 よくある

6 病棟では、退職・休職が頻繁である

1 ほとんどない 2 たまにある 3 ときどきある
4 しばしばある 5 よくある

7 病棟では、定数に占める新人看護師の割合が多いほうである

1 全くそう思わない 2 そう思わない 3 どちらともいえない
4 そう思う 5 非常にそう思う

II. 現在の背面開放座位の実施状況について

1 病棟で背面開放座位を実践し始めたのは何年前ですか。

おおよそで結構ですので、枠内に数字をお書きください

 年

2 病棟で活用できる背面開放座位保持具（座ろうくん®、Sittan®など）がありますか

1. ある 2. ない



Ⅱ. 現在の背面開放座位の実施状況について

以下の設問が、現在の病棟全体の背面開放座位の実践にどの程度当てはまるか、最もあてはまる番号ひとつに○をしてください		あ て は ま ら な い	全 く あ て は ま ら な い	い ど ち え な い と も	あ て は ま る	あ 非 常 に ま る
3	病棟スタッフは、背面開放座位について共通の目的をもっている	1	2	3	4	5
4	病棟では、背面開放座位を対象となる人々に提供し続けている	1	2	3	4	5
5	病棟では、背面開放座位は標準的な看護とみなされている	1	2	3	4	5
6	背面開放座位に関連した患者効果は、導入時・あるいは実施し始めてから、変わらず維持されている	1	2	3	4	5
7	背面開放座位を実践して、患者効果以外の利益（家族や看護師の満足度向上・業務改善など）を感じる	1	2	3	4	5
8	背面開放座位を実施したことで、看護師や病棟の看護実践の質の向上、意識の変化を感じる	1	2	3	4	5
9	他の病棟でも背面開放座位を実施されるようになっている	1	2	3	4	5
10	新たな看護イノベーションを導入し現在も継続している	1	2	3	4	5

*看護イノベーション：根拠ある新しい看護技術・看護ケアプログラム

Ⅲ. 背面開放座位や看護イノベーションに対するあなたのお考えについて

以下の設問が、現在のあなたにどの程度当てはまるか、最もあてはまる番号ひとつに○をしてください		は 全 く あ て は ま ら な い	あ ほ と ん ど あ て は ま ら な い	あ ま り あ て は ま ら な い	い ど ち え な い と も	あ や や あ て は ま る	あ か な り あ て は ま る	あ 非 常 に ま る
1	背面開放座位について、好意的に感じている	1	2	3	4	5	6	7
2	背面開放座位は、有益な結果をもたらすという証拠（エビデンス）がある	1	2	3	4	5	6	7
3	背面開放座位には、他の方法と比べて明らかな利点がある	1	2	3	4	5	6	7
4	背面開放座位は、患者の転帰改善と関連している	1	2	3	4	5	6	7
5	背面開放座位は、健康上・臨床上的に好ましい結果と明確に結びついている	1	2	3	4	5	6	7
6	背面開放座位は、かけた労力や費用に対して、得られる効果（費用対効果）が大きい	1	2	3	4	5	6	7
7	背面開放座位は、時間と労力を要するケアである	1	2	3	4	5	6	7
8	背面開放座位が、患者にとってよりよいケアであると信じている	1	2	3	4	5	6	7
9	背面開放座位はよりよいケアであり、行うべきだと思う	1	2	3	4	5	6	7

- ① 看護イノベーションについてアンテナを張り、知識や技術を身につけ、部下に伝えている
- ② 看護イノベーションについて積極的に学んで知識と技術を身につけている
- ③ 看護イノベーションの利点や欠点を知り、実践した経験を聞き問題がないか見極めないと、看護イノベーションは実施しない
- ④ 看護イノベーションに興味がない。大部分が実践するようになれば学習を始める
- ⑤ 命令・強制されるまで看護イノベーションは実施しないだろう

IV. 背面開放座位の継続に影響する具体的要因について

あなたの背面開放座位の実践において、 以下の項目に最もよく当てはまる番号ひとつに○をしてください		はま くら あて ない	あ て は ま ら ない	あ ま り ま ら ない	い ど ち な い も	あ や は ま る	あ か な り ま る	あ て は ま る	非 常 に ま る	回 答 で き な い
現在、背面開放座位を実践していない場合は、背面開放座位の実践が 先細り出したときのことを思い出して回答してください										
*関係者＝背面開放座位を実践することで恩恵を受ける者、 背面開放座位を指導する者。 スタッフ、研究者、指導者、患者・家族など										
1	背面開放座位に、患者さんやご家族を関係者として巻き込む/巻き込んだ	1	2	3	4	5	6	7	0	
2	背面開放座位に関与するすべての関係者に敬意が示される/示された	1	2	3	4	5	6	7	0	
3	背面開放座位は、多様な関係者から評価されている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0	
4	背面開放座位は、他の医療チームや地域との連携も適宜行っている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0	
5	実践を行なっているチームは、背面開放座位に関する関係者のフィードバックに対 応する能力を持っている/いた	1	2	3	4	5	6	7	0	

V. 病棟の文化・雰囲気について

職場の状況に関する以下の質問について、 現在のあなたの認識に最も近いものの番号ひとつに○をしてください		そ う く 思 わ な い	そ う 思 わ な い	い ど ち な い も	そ う 思 う	そ 非 常 に 思 う
1	スタッフは、常に最高のパフォーマンスを発揮したいと願っている	1	2	3	4	5
2	スタッフは仕事に熱中している	1	2	3	4	5
3	スタッフは、なるべく少ない業務で済んでいる	1	2	3	4	5
4	スタッフは、良い仕事をするために精一杯やろうという気持ちがある	1	2	3	4	5
5	スタッフは、必要以上に仕事に力を入れることはない	1	2	3	4	5
6	私たちは定期的に時間をかけて、業務の進め方を改善する方法を検討している	1	2	3	4	5

	そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	い ど ち ら な い と も	そ う 思 う	そ 非 常 に う
7 私たちの病棟の人々は、業務改善のため、新しい方法を積極的に求めている	1	2	3	4	5
8 私たちの病棟では、みんなでアイデアを出し合う	1	2	3	4	5
9 私たちの病棟は、失敗から学ぶ	1	2	3	4	5
10 病棟で問題が発生したとき、何が起きているのかを真剣に考えるようにしている	1	2	3	4	5

VI. 病棟における教育・実践・病棟管理について

以下の設問が、どの程度当てはまるか、 最も当てはまる番号ひとつに○をしてください	あ て は ま ら な い	あ あ ま り は ま ら な い	い ど ち ら な い と も	あ や あ ま り は ま る	あ て は ま る
1 看護師長として、ケアの改善を協議するのに、必要な時間と場所を確保している	1	2	3	4	5
2 看護師長として、業務が行いやすい環境を整えている	1	2	3	4	5
3 看護師長として、働くのが楽しくなる環境整備を推進している	1	2	3	4	5
4 看護師長として、病棟を変えるための取り組みをしっかりとサポートしている	1	2	3	4	5

VII. 看護部長、看護部や院内での支援について

*看護イノベーション：根拠ある新しい看護技術・看護ケアプログラム

以下の設問が、どの程度当てはまるか、 最も当てはまる番号ひとつに○をしてください	あ て は ま ら な い	あ あ ま り は ま ら な い	い ど ち ら な い と も	あ や あ ま り は ま る	あ て は ま る
1 看護部長や看護部は、背面開放座位などの新しい取り組みを推進している	1	2	3	4	5
2 看護部長や看護部は、変化に抵抗し看護イノベーションを奨励しない	1	2	3	4	5
3 看護部長や看護部は、看護イノベーションの支援に積極的に関与し姿を見せる	1	2	3	4	5
4 看護部長や看護部は、看護イノベーションを実行する際、予算や財源の面で必要な支援を行う	1	2	3	4	5

VIII. 最後に、あなた自身のことについてお聞かせください

1 看護師としての臨床経験年数（枠内に数字を記入）

年

2 看護師長としての経験年数（枠内に数字を記入）

年

3 認定看護管理者受講について（該当するものに○）

1. ファースト 2. セカンド 3. サード

4 最終学歴（ひとつだけ○）

1. 看護系養成所 2. 短期大学（看護・医療系） 3. 短期大学（看護・医療系以外）
4. 大学（看護・医療系） 5. 大学（看護・医療系以外） 6. 大学院修士課程
7. 大学院博士課程

ご協力いただき、ありがとうございました。 月 日までにご投函ください

ご協力の御礼（500円のギフトカード）を送付しますので、下記の枠内にメールアドレスをご記入ください
ご記入いただいたメールアドレス宛に、質問紙到着後2週間を目安に「500円分ギフトカード」を送付いたします

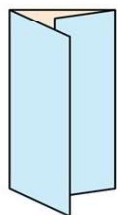
*メールアドレスはどのようなものでも結構です（職場用などでなくて結構です）

*メールアドレス管理は研究者以外の第三者が行いますので、研究者が皆様のアドレスを知ることはありません

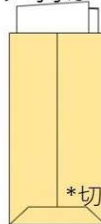
メールアドレス

アンケートの返送方法

調査票を3つ折り
にする



返信用封筒に入れ
テープ剥がし封をする



*切手貼付は不要



お近くのポストに
投函する



資料3 看護部長宛て 研究協力依頼書

〇〇〇病院

看護部長□□□□殿

「急性期病院における看護イノベーションの持続可能性に関する影響因子の特定とその構造―背面開放座位に焦点を当てて―」に関する質問紙調査ご協力をお願い

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私は、現在聖路加国際大学大学院博士後期課程に在学しております、佐々木杏子^{ささき きょうこ}と申します。専門分野は看護技術学で、根拠ある看護ケアや看護プログラムの導入とその継続に関する研究を行っています。ご多忙中のところまことに恐れ入りますが、以下の研究の趣旨をご理解の上、ぜひご協力いただきますようお願い申し上げます。

【研究目的と意義】

昨今多くの看護ケアや看護プログラム（看護イノベーション）が開発されております。褥瘡ケアのように定着したイノベーションもありますが、ほとんどが継続されません。看護イノベーションを継続し日常に根づかせるためには、長期的な継続（持続可能性）を促進する要因を明らかにする必要があると考えています。

本研究では、看護イノベーションを「背面開放座位」とし、導入後継続しているのかの調査、持続可能性に対する影響要因、要因間の関連性を構造化することを目的とします。これにより、看護イノベーションを導入する際の考慮する点が明確となり、持続可能性を高める方略につなげたいと考えています。

【研究について】

貴院は過去に背面開放座位を導入したという実践報告をされてしました。

当該病棟の看護師長・看護師の皆様^{みなさま}に、背面開放座位が継続しているのか、中止したのかとともに、さまざまな要因（個人・組織・リーダーシップなど）の質問紙にご回答いただきたく存じます。回答に要する時間は 15～25 分程度です。

1. 対象者

背面開放座位を導入した病棟に所属する看護師・看護師長の方
(ただし現在1年目の看護師は除きます)

2. 調査内容

「看護スタッフ用」「看護師長用」質問紙 ※各1部を同封いたしました

3. 研究方法および手順

ご協力いただけます場合、①人数分の看護スタッフ用質問紙、②看護師長用質問紙1部、③返信用封筒（もしくはQRコード添付した依頼文）を郵送いたします。当該病棟の研究協

【看護部長様にご協力をお願いしたいこと】

- ※「背面開放座位」は、現在実践していなくても全く問題ありません。

1. 研究の承諾、中断は自由意思に基づき、研究の協力がいない場合であっても、施設や個人に不利益は生じません。
2. 一度、研究協力の申し出をした後でも、質問紙を返送するまでの期間はいつでも協力を取りやめることができます。
3. 参加者の個人情報は固く守られます。研究対象者の研究参加への諾否は誰にも伝えません。2つの質問紙を連結可能な匿名化によって実施しますが、質問紙は無記名であり、個人属性への質問項目は分析に必要な最小限であることから個人が特定できません。
4. 本研究で得られたすべての情報及びデータは、本研究の目的以外には一切用いられません。得られたデータは厳重に管理します。
5. 研究成果は博士論文としてまとめ、学会や学術雑誌などで公表しますが、数値化し統計処理を行うので、匿名性が保持されます。

調査協力の可否について、以下の項目にご記入をお願いいたします

①貴院名をご記入ください

②本調査にご協力いただけますか（1 つだけ○）

1. 協力可
2. 協力不可 → ハガキを綴じてご返送ください

③どちらの調査方法を希望されますか（1 つだけ○）

紙面調査 Web 調査

④ご配布いただける看護スタッフ用の部数をご記入ください

※対象となるスタッフの

部

人数をご記入ください

⑤調査票の送付先をお知らせください

ふりがな	
窓口となる ご担当者様	
ご住所	〒 — 都 道 府 県
TEL	
E-mail	@
備考	

※投函の際には、プライバシー保護シールを貼付してもらう

看護師長様

「急性期病院における看護イノベーションの持続可能性に関する影響因子の特定とその構造―背面開放座位に焦点を当てて―」に関する質問紙調査ご協力をお願い

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私は、現在聖路加国際大学大学院博士後期課程に在学しております、佐々木杏子と申します。専門分野は看護技術学で、根拠ある看護ケアや看護プログラムの導入とその継続に関する研究を行っています。ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、以下の研究の趣旨をご理解の上、ぜひご協力いただきますようお願い申し上げます。

【研究目的と意義】

昨今多くの看護ケアや看護プログラム（看護イノベーション）が開発されていますが、褥瘡ケアのように定着したケアは一握りで、ほとんどが継続されません。看護イノベーションを継続し日常に根づかせるためには、長期的な継続（持続可能性）を促進する要因を明らかにする必要があります。本研究では、看護イノベーションを「背面開放座位」とし、導入後継続しているのかの調査、持続可能性に対する影響要因を明らかにします。それにより、看護イノベーションの持続可能性を高めるための一助とします。

貴病棟は、過去に「背面開放座位」を導入したという実践報告をされていました。病棟師長様、病棟スタッフの皆様を対象とし、ケアは継続・中止したのか、さまざまな要因（個人・組織・リーダーなど）にご回答いただきたく存じます。

【調査対象者の皆さまにご協力いただきたい内容】

1. 対象者

看護イノベーションを導入した病棟に所属する看護師・看護師長の方
(ただし現在1年目の看護師は除きます)

2. 調査票

- ・看護スタッフ用と看護師長用の2種類です（無記名調査です）
- ・看護スタッフ用の部数は、お知らせいただきました部数を封入しております
- ・看護スタッフ用質問紙・返信用封筒は1年目以外の皆様に配布をお願いします
- ・病棟師長様は、ご協力いただけます場合、看護師長用質問紙、返信用封筒を受け取りの上、ご回答をお願いいたします。

- ・回答時間は、スタッフ用：20～25分程度、看護師長用 15～20分程度です。
- ・回答いただきましたら、質問紙末尾にメールアドレスをご記入ください。全員に本研究の謝礼として、ギフト券 500 円分（E メールタイプ）をお送りいたします。メールアドレスの情報は研究者でない第三者が管理します。

3. 提出方法

質問紙は、返信用封筒で 3週間程度を目安に各自ご回答・ご返送をお願いします。

4. その他

- ・「背面開放座位」は、現在実践していなくても全く問題ありません。

【倫理的配慮】

本研究の実施にあたり、下記の点についてお約束いたします。

1. 研究の承諾、中断は自由意思に基づき、研究の協力がなくても、施設や個人に不利益は生じません。
2. 一度研究協力の申し出をした後でも、質問紙を返送するまでの期間はいつでも協力を取りやめることができます。
3. 参加者の個人情報は固く守られます。研究対象者の研究参加への諾否は誰にも伝えません。2つの質問紙を連結可能な匿名化によって実施しますが、質問紙は無記名であり、個人属性への質問項目は分析に必要な最小限であることから個人が特定できません。
4. 本研究で得られたすべての情報及びデータは、本研究の目的以外には一切用いられません。得られたデータは厳重に管理します。
5. 研究成果は博士論文としてまとめ、学会や学術雑誌などで公表しますが、数値化し統計処理を行うので、匿名性が保持されます。

なお、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けております (21-A092)。

研究にあたり、対象となる看護師長、看護師の皆様に対する倫理的配慮には最善の注意を払うことをお約束いたします。ご意見やご不明な点などがございましたら、下記までご連絡いただけますと幸いです。

研究者：佐々木 杏子（ささき きょうこ）

所属機関：聖路加国際大学大学院博士後期課程

住所：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

連絡先： 電話 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 E-mail: 〇〇〇〇〇〇@slcn.ac.jp

指導教員：大久保暢子

（聖路加国際大学大学院看護学研究科 ニューロサイエンス看護学教授）

「急性期病院における看護イノベーションの持続可能性に関する影響因子の特定とその構造―背面開放座位に焦点を当てて―」に関する質問紙調査ご協力をお願い

私は、聖路加国際大学大学院博士後期課程に在学しております佐々木杏子と申します。専門分野は看護技術学で、根拠ある看護ケアや看護プログラムの導入とその継続に関する研究を行っています。昨今多くの看護ケアや看護プログラム（看護イノベーション）が開発されていますが、定着したケアは一握りです。看護イノベーションを継続し日常に根づかせるためには、長期的な継続（持続可能性）を促進する要因を明らかにする必要があります。本研究では、看護イノベーションを「背面開放座位」とし、導入後継続しているのかの調査、持続可能性に対する影響要因を明らかにします。それにより、**看護イノベーションの持続可能性を高めるための一助**とします。

ご多忙中のところまことに恐れ入りますが、以下の研究の趣旨をご理解の上、ぜひご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けております（21-A092）。所要時間は20分程度です。今回の調査へのご協力に対し、薄謝ではありますが、謝礼（500円ギフト券）をお渡しいたします。質問紙末尾にメールアドレスをご記載下さい。後程メールアドレスにギフト券をお送りします。

この調査にご協力いただくにあたり、以下のことをお約束いたします

1. 研究の協力は皆様のご自由です。協力しなくても、不利益を被ることはありません。
2. 研究にご協力いただくにあたって、参加者の個人情報（氏名、年齢、性別、職名、所属）は固く守ります。質問紙は無記名の調査で、研究参加の諾否は上司には伝えません。看護スタッフ・看護師長の質問紙を連結可能な匿名化によって実施しますが、個人属性への質問項目は分析に必要な最小限であることから個人が特定できません。看護師長様から得たデータと皆様のデータを連結しますが、個人が特定されることはありません。
3. 本研究で得られたすべての情報及びデータは、本研究の目的以外には一切用いません。得られたデータは厳重に管理し、研究成果がまとまった時点ですべて破棄します。
4. 研究成果は博士論文としてまとめ、学会や学術雑誌などで公表しますが、数値化し統計処理を行うので、匿名性が保持されます。
5. 研究計画書・研究方法について資料の閲覧を希望する場合は、下記にご連絡ください。

研究者：佐々木 杏子（ささき きょうこ）

所属機関：聖路加国際大学大学院博士後期課程 /

住所：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

連絡先： 電話 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 E-mail： 〇〇〇〇〇@slcn.ac.jp

指導教員：大久保暢子

（聖路加国際大学大学院看護学研究科 ニューロサイエンス看護学教授）

誓約書

私は、業務を遂行するに当たって、下記の事項を遵守することを誓約します。

記

- 1 社会規範、法令、学内規則その他の執行ルールを遵守すること
- 2 雇用又は依頼された業務もしくは用務を誠実に遂行すること
- 3 不正行為、還流行為を行わないこと
- 4 規則等に違反して、不正を行なった場合は、法的な責任を負担すること

以上

西暦 年 月 日

氏名： _____（自署）